

栄養治療学特別実験

栄養治療学特別実験

12単位 (選択) 1年, 2年

武田 英二(授業責任者)・教授/人間栄養科学専攻, 竹谷 豊・准教授/人間栄養科学専攻

【授業目的】 [目的]

【授業概要】 種々栄養素の機能を, 様々な病態や環境下で与えたときの栄養代謝動態, ホルモン動態を, 動物を用いて評価実験する. 特に生活習慣病モデル動物や栄養不良動物を中心に評価・実験を行い原理や手法について理解させる.

【授業方法】 オムニバス方式

【キーワード】 [キーワード]

【先行科目】 [先行科目]

【関連科目】 [関連科目]

【到達目標】 [目標]

【授業計画】

1. 正常および糖尿病モデル動物を用いて, 栄養代謝を実験をとおして理解する. そのうえで, 糖尿病に対する予防及び治療に対する栄養療法の意義及び問題点を理解させる. (担当者: 武田教授)
2. 栄養疾患モデル動物を用いて, 栄養素代謝調節機構について実験を行い理解させる. そのうえで, 栄養障害に対する予防および栄養療法の意義と評価方法について研究させる. (担当者: 竹谷助教授)

【成績評価】 実験実習への出席状況により判定する

【再試験】 なし

【教科書】 [教科書]

【参考書】 [参考資料]

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217645>

【連絡先】 [連絡先]

Target 〔目的〕

Outline 種々栄養素の機能を、様々な病態や環境下で与えたときの栄養代謝動態、ホルモン動態を、動物を用いて評価実験する。特に生活習慣病モデル動物や栄養不良動物を中心に評価・実験を行い原理や手法について理解させる。

Manner オムニバス方式

Keyword 〔キーワード〕

Fundamental Lecture 〔先行科目〕

Relational Lecture 〔関連科目〕

Goal 〔目標〕

Schedule

1. 正常および糖尿病モデル動物を用いて、栄養代謝を実験をとおして理解する。そのうえで、糖尿病に対する予防及び治療に対する栄養療法の意義及び問題点を理解させる。(担当者: 武田教授)
2. 栄養疾患モデル動物を用いて、栄養素代謝調節機構について実験を行い理解させる。そのうえで、栄養障害に対する予防および栄養療法の意義と評価方法について研究させる。(担当者: 竹谷助教授)

Evaluation Criteria 実験実習への出席状況により判定する

Re-evaluation なし

Textbook 〔教科書〕

Reference 〔参考資料〕

Contents <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217645>

Contact 〔連絡先〕